環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.６３
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団
環境技術部　環境活動推進チーム
電 話 043−246-2180
ＦＡＸ 043−246-6969

地球人みんなのエコロジーフェスティバル!!
『エコメッセ 2008in ちば』が開催されました！

2008 年 9 月 7 日（日）幕張メッセ国際会議場において、地球温暖化防止と生物多様性をテーマに持続可能な社会をめざして 87 の市民･学校・企業・行政の出展者と 9000 人の来場者が集いました。

会場正面玄関前の野外会場では、燃料電池車・水素燃料車・電気自動車・アイドリングストップ装置搭載トラック・剪定枝の粉砕処理車などのエコカーがにぎやかな展示で目を引きました。

2 階の展示場では、国際会議室の併催事業「環境フォーラム in エコメッセ 2008」「STOP 地球温暖化 in エコメッセ 2008」と共に今年のエコステージが 201 会議室になったことから２階全部がエコメッセとなり、多くの人で一日中にぎわっていました。この様子は、エコメッセホームページ http://www.ecomesse.com/index.htm 内のライブ中継でご覧になれます。

今年の目玉は、子どもから大人まで楽しく参加できる「ICCS 公認缶つぶし世界選手権 in エコメッセ」はじめ、企業の環境学習・体験学習、学校･市民の活動発表の場となる「エコステージ」が別会場になったことでエコステージに参加者が少ない時があり反省点でした。

今年で 13 回目の開催となったエコメッセは、1 回目から一貫して運営を市民・企業・行政のパートナーシップによる実行委員会で実施しています。環境パートナーシップちばは、代表が実行委員長、運営委員が事務局役として今年も参加しました。来年 2009 年は、９月６（日）に開催予定です。どんなエコメッセにするか、皆さんも実行委員となって企画してみませんか？お問い合わせは、環境パートナーシップちばまでどうぞ。

（文責　横山）

「エコメッセ 2008in ちば」　に参加して

エコマインド養成講座インターン生　馬渡　敏隆

幕張メッセにおいて１３回目になる「環境活動見本市」が開催され初めて参加しました。会場内の電気は、太陽光で発電した千葉県産の電力が使われていて、屋外では、燃料電池車、電気自動車などエコカーが展示、試乗されていました。会場内では、千葉県下の市民･企業･行政が所狭しとばかり見本市にふさわしい、オリジナリティーに富む実演や作品展示で、事例紹介していて、環境という根から花を咲かせる活動は熱気を感じる雰囲気でした。

併設されている催しも環境時代にふさわしく、エコステージではヒートポンプやカルガモによる米つくり発表など、また、地球温暖化防止と生物多様性の保全の講演、パネルディスカッションなど盛り沢山のメニューでした。環境パートナーシップちばのブースでは、展示以外に水道水と印旛沼の水を置いて、見たり、においをかぎ、水を汚さないようにするアピールをしました。

来場者は昨年度より１２％も増えたようで、見本市が市民に定着してきているように思います。家族連れも多く目立ち、子どもが興味を示す姿は、明日の環境を作るうえで大事な土壌が存在していることにうれしさを感じました。あわせて環境のお祭りをも感じた一日でした。

エコマインド養成講座インターン生　渡辺　舞

今回初めてエコメッセに参加させていただきました。前日のプレオープンのお手伝いと、当日は環境パートナーシップちばのブースに少しの間だけ立たせてもらってのお手伝いしかできなかったので、あまりお役に立てなかったことと思います。

環パちばもブースでは、印旛沼の水と水道水を比較に興味を持った方が立ち止まったり、花見川エコウォーキングマップを買っていく方々がいたり、どんな活動をしている団体なのだろうかと不思議そうに眺めていく方がいたりと様々でした。環パちばの会員の皆さんは、多種多様な環境活動をしている方が多く、当日はとても忙しい様子でした。

そんな中、たくさんの方を紹介してくださり、何人もの方々との素敵な出会いがありました。その出会いを今後に活かし、私自身の活動にもつなげていきたいと思っております。

環パちばのブース自体は、どちらかというと地味なブースではありましたが、「～つながれ　ひろがれ～」という理念をダイレクトに見聞きすることができ、環境活動をしている方々の人々のとのつながりが見えたような一日でした。

～エコメッセで
デビューしました～

『環境パートナーシップちばリーフレット』
ができました。

※今後再検討し、印刷予定です。

エコ体験スクール　活動報告

水しらべ隊！花見川たんけん隊！

今年も、水に関心を持ち、水の大切さに気付いて、自分でできることは何か？を見つけて欲しいと、花見川区の小学生を対象に、千葉市エコ体験スクールの受託事業を行いました。定員 40 名のところ、今回も 70 名の応募があり抽選しました。「残念でした」の結果のお知らせは、応募ハガキに「参加できますように！」とのコメントを見るたびにつらくなります。このような状況の中、花見川区の 15 校、中央区、稲毛区など 3 校の 1 年生から 6 年生までの 40 名の小学生と環パちばのスタッフ、講師、千葉市など関係者合わせて 52 名が 1 台のバスに乗り、柏井浄水場、花島公園と移動しながら体験活動を行いました。運良く、バスの運転手さんも今回も同じ方でルートなど安心して任せられました。

瑞穂小、花島公園の 2 箇所で集合し、柏井浄水場へ向かいました。千葉市内の水道水は、柏井浄水場で作られています。ここでは水ができるまでについて説明を聞き場内を見学しました。「ちばの水」をお土産にいただき、花島公園へ移動です。8 日は大変暑い日で、公園の木陰は涼しく、緑の大切さを体験しました。ここでは、講師の鈴木智子さん、スタッフの荒尾　繁志産による、水辺の生物や、森の自然観察会を行いました。ニイニイゼミの抜け殻、トンボ、大きなナナフシなど見つけることができました。お弁当の後は、探検、発見の活動をしましたが、班で話し合うなどの時間が少ないようでした。

午後はコミュニティセンターの創作室で水について活動しました。「しずくのぼうけん」の本を聞き、「水のたび」のゲームをしました。このゲームは、さいころを転がして、水循環の水の移動が学べるようになっています。さいころは雲や土などの面が多く出るのでなかなか一回りというわけにはいかないようです。

水について学び、自然について感じる体験活動でした。暑い中大変でしたが、怪我もなく安全に過ごせたのは感謝です。反省することはありますが、次回にまた活かしていきたいと思います。

この活動は、ケーブルテレビで放映されました。

(文責：桑波田)

千葉市エコ体験スクールに参加して

辻本　喜代志

教員経験のない私が、５人もの児童を引率できるのか、そして子供と遊ぶことができるのか、山の話を子供にすることができるのか等々、事の次第も分からないまま不安いっぱいで、瑞穂小学校に集合した。

柏井浄水場は初めての見学。子供と同じ目線を心がけたが、どうしても引率の５人が気になり、説明も頭に入らない。その水を水の浄化だけでなく、水源の状況、保水林の植生を通じた水のサイクルなどを、水環境を守る大切さを説明に加えて欲しかった。それにしても炎天下であった。帽子を忘れた子供に私の帽子をかぶらせ見学を進めたが、その子が返却に来た際の礼儀正しさは印象的であった。

浄水場見学を終え、花島公園にて昼食となるが、木陰で５人の児童と楽しく食事を取る。女の子はレジャーシートや靴に、蟻が登ったといえばキャーキャーと騒ぐので、蟻について話したが全く聞き入れてはくれない。生物多様性を教える前に、虫との共存になじんでもらいたいと思う。

食後は率先して裸足になり、水路に入り涼を味わう。それがきっかけとなり子供たちも水路に入り、水と戯れる。人工の水路だが、水辺で子供たちが遊ぶシーンがとても好きだ。思い出に残る郡上八幡で見た水ガキたちと同じだ。花見川から水路を作り、子供が遊べる水公園が欲しいと思う。

鈴木　智子さんの「音の種類を聞き分けよう・大きな葉っぱを探そう」など、楽しく遊べたが、時間が押してしまったのか、それを子供たちが発表する場がなく、何だか中途半端になったような気がした。その後の授業も暑さのせいか子供たちもダレてしまい、集中力が途切れたように見え、夏の長時間野外学習の難しさが出たように感じる。

今後、夏の授業を考えて以下のテーマを提案できないだろうか。

●花見川の水辺生物観察のためカヌーかボートで河口まで下る。

●千葉県の川（小櫃川・養老川など）の源流域の植生や地層の観察。

●印旛沼に流れる鹿島川源流での遊びと利根川。

私にとって非常に有意義で、勉強させられた一日でした。ありがとうございました。

「ソーラークッカーづくりを通じて地球温暖化問題を考えましょう」

９月１７日の午後２時から４時までの２時間、荒尾繁志、若月　聡、加藤賢三の３人で「ソーラークッカーづくりを通じて地球温暖化問題を考えましょう」というテーマで小中台中学校の総合学習の出前講座にいってきました。対象は、２年生、３年生の合同クラスで担当の先生を含めると２８名で、６班に分けました。当時は、天候不順で、天気予報では、雨でしたが、なぜか当日だけは天気で本当に助かりました。当日は、趣旨説明、班分け、太陽の恵みの解説、ソーラークッカー(あさがお)づくり、ポップコーンづくり、振り返りシート記入、終了という段取りになりました。

ふりかえりシートでの内容は大筋以下のようでした。

1．ソーラークッカーを作ってみた感想：①大変だったけど、みんなと協力して行えたので楽しかった。

2．太陽からの恵みで印象に残ったことは：①太陽光はすごい力がある。②太陽がないと人間は生きてゆけない。③普段考えていなかった太陽の光、二酸化炭素について考えることができた。④赤外線や紫外線について何も知らなかったのでよかった。

3．ポップコーン作りをした感想：①とても楽しかった（大部分）。

4．地球温暖化を防ぐにはどうすればよいですか：①太陽光を有効に活用する。②エコ生活する。③だれかが地球温暖化を防ぐ機械を発明する。④ソーラーパネルをうまく使う。⑤太陽の光を利用して、二酸化炭素排出量を減らす。⑥資源を大切にする。⑦ごみを減らす。

5．今回のような授業は歓迎しますか：①大歓迎です(全員)。

自然エネルギーの大切さに気づき、身近な環境を考え、温暖化防止や資源循環型社会の実現のためにできることを考える良い機会だったのではと思います。

(文責：加藤)

パートナーシップエコサロン

千葉県の環境問題に関する意見交換会の開催

環境パートナーシップちばでは、千葉県の環境問題に関する学習会・意見交換会を設立以来行ってまいりました。永らく中断していましたが、環境政策課の温暖化対策推進担当部局とこの件に関して、何回か相談させていただきました結果、このたび、再開第一回という形で県と環パちばとの意見交換会を行いました。平成２０年８月２５日（月）１８時３０分から２時間半にわたり千葉市民活動センターで行われました。

県からの出席は、環境政策課（政策室、温暖化対策室）、自然保護課、資源循環課から７名のご参加をいただき、テーマは温暖化防止、生物多様性、環境学習、資源循環などについてです。短い時間の中ではありますが、今回は各テーマの説明１５分、質問１５分ということで進めました。以下が、各テーマの内容のミニ概要です。

１．温暖化防止について（環境政策課）

県民一人ひとりが、生物多様性を保全することの大切さを理解し、地球温暖化の防止に取り組むため、今年度から県民、学生、NPO、企業等の多様な主体により構成された「地球温暖化防止と生物多様性保全」推進きゃらばん隊を発足した。５月２７日(火)に県庁で出陣式を行い、市町村・NPO・企業と連携して、県内各地でキャンペーンを行っている。このほか、CO2 削減に向け、CO2CO2(こつこつダイエットとして、１）将来を担う子どもたち、２）家庭部門、３）CO2 排出の伸びが著しい事業部門、４）県庁職員の家庭での取り組み、などを対象に推進している。

２．生物多様性について(自然保護課)

生物多様性戦略推進のための予算はおよそ１．２５億円。そのうち外来種緊急対策事業費は４．７５９万円で、これはカミツキガメ、アライグマ、キヨンなどの計画的防除のためのものである。また、平成２０年度生物多様性体験学習推進事業を実施する学校や学校ビオトープの整備・改修及びその活用を支援する「平成２０年度生物多様性体験学習推進授業補助金」の事業を実施する学校、１５校が決まった。今後、各学校に設置した実行委員会(教職員、児童、生徒、PTA、地域住民などで構成)が事業を行っていく。さらに、学校ビオトープを通じて、生物多様性の保全・回復、効果的な活用や環境学習の推進を図るため、学校ビオトープフォーラムを１１月８日(土)に開催する。

３．環境学習について(環境政策課)

平成１９年度９月に改定された「千葉県環境学習基本方針」に基づき、環境学習推進のため、各事業を行っている。それらは、県民環境講座、CO2CO2ダイエット出前講座、環境学習アドバイザーによる講座、エコマインド養成講座(県民コース、教職員コース：県民コースは２０年度から一般コースと指導者コースとなった)である。さらに、スキルアップ講座、こどもエコクラブの活動支援など、特に市民活動関連では、NPO 公募型環境学習委託事業、NPO 及び事業者公募型地域環境学習教材作成委託事業などもある。これに関連して、２０年度からの目玉は、ちば環境学習ネットワーク会議の始動であり、当会議は環境学習実施計画案の策定、実施計画内容の点検・評価、県への提言を行う組織である。

４．資源循環について（資源循環推進課）

依然として、減少しないごみの現在の排出量は一般廃棄物を例にすれば、１，１２６g/人・日である。平成２２年では、１，０００g、平成３０年には９５０ｇにという目標が掲げられている。このために、各主体の協働で取り組む３Ｒの推進が今回の千葉県廃棄物処理計画(案)の柱となっている。

各課題の説明の後、質疑応答が行われました。いずれのテーマでも、市民、企業、行政のパートナーシップがそれらの課題の解決に必須ということが印象に残りました。行政側からは環境保全活動を進めている市民団体の情報が不足しているという観点から、現在、市民団体情報を収集中でそれを環境基本計画の概要版に追加する予定とのこと。そして、各テーマにおいて、環境学習が共通の重要な柱になっている現状も確認されました。これから分かることは、協働でも、環境学習でも、縦割りで、行われている弊害？があるとすれば、環境パートナーシップを協働で推進する場所が必要ということを痛感しました。今回の意見交換会は意義深いものがあり、継続が必要と思いました。

(文責：広報部)

・・・・・・・・・・・次回のパートナーシップエコサロン・・・・・・・・・・

日時：１０月２９日(水)　午後６：３０
場所：浦安市民活動センター
話題提供者：栗原　裕治氏
話題：生物多様性について

申し込み問い合わせ：桑波田
Tel/fax：０４３－２５８－５４３７
e-mail：kuwahatak@hotmail.com

第１３回水シンポジウム 2008in ちば

日時：８月７日(木)　９：00～17：00
会場：幕張メッセ国際会議場(コンベンションホール)
メインテーマ：水を知ること、川を知ること、ちばから発信

発表しました

水シンポジウムは､土木学会水理委員会(現在の水工学委員会)の呼びかけにより､１９９６年に鳥取県で第１回が開催されて以降、全国各地で開催され、今回は第１３回開催になるそうです。主催は、(社)土木学会水工学委員会、国土交通省関東地方整備局、千葉県、千葉市からなる実行委員会です。

シンポジウムは、７日のシンポジウムと８日には、江戸川コース、利根川コースの現地見学会もありました。

７日のシンポジウムは、世界の水問題から千葉県の課題(主に印旛沼､千葉市内の水辺環境と子どもたち)について４分科会があり、沖　大幹氏、虫明　功臣氏、中村　俊彦氏など水や生態に関する専門家が多くパネリストとして出席されていました。

分科会の後の午後の部に、市民団体等(１４団体)による活動発表がありました。この発表は、千葉県と千葉市が主催し２会場で行われました。環境パートナーシップちばは千葉市が主催する会場で｢花見川と子どもたちとの水の学習｣について、桑波田が発表しました。内容は、夏休みに開催する千葉市エコ体験スクールで、花見川区の小学生と水のことを考える体験活動についてでした。

花見川での活動は３年間活動してきました。これが評価され今回報告する場をいただいたと思います。

水を大切にする気持ちを育ちあう活動を今後も継続していきたいと思いました。

(文責：桑波田)

SURTECH2008

ものづくりー地球にやさしい表面技術のすべてー

日時：９月 10 日(水)～12 日(金)　10：00～17：00
会場：幕張メッセ展示ホール７

展示しました

表面技術の総合展｢SURTECH｣は､昨年度から、幕張メッセが会場となり、約 17,000 人が参加するイベントです。

今年は、千葉県環境政策課もブースをいただき出展することになったそうです。そこで、政策課のブースに当会も展示をしませんかとお誘いいただきました。

当会は、ESD のパネルとエコメッセ 2008in ちばの報告、環境シンポジウムちば会議のチラシを展示、配付しました。

政策課では、｢地球温暖化防止と生物多様性保全｣推進きゃらばん隊として、CO2 ダイエット宣言を呼びかけました。このきゃらばん隊の一員としても活動しながら、当会の活動やエコメッセについて話しかけました。

来場者は、ほとんどが専門の会社関係者でしたが、大学の出展もありましたので、学生さんとの交流もできました。また、エコメッセは企業の方にも関心があるようでした。

(文責：広報部)

｢環境シンポジウム 2008 千葉会議｣を開催します！！

市民・企業･行政･大学のパートナーシップで環境のことを考える｢環境シンポジウム 2008 千葉会議｣が１０月２５日(土)千葉市文化センターにて午前１０時から開催されます。

２００８年度テーマ“今ならできる、みんなでストップ温暖化！”です。基調講演では星野智子氏(環境ユニット)に、Ｇ８洞爺湖サミットの報告をグローバルな視点の報告。歌川　学氏（独立行政法人産業技術総合研究所）に、排出量削減の可能性などについて専門家での見解をお話していただきます。

また、県内で温暖化防止に向けての取り組みを、市民、大学、企業、行政から報告や、県内での環境保全活動を３７団体のポスターセッションも行います。さらに、温暖化防止についての学習会の報告があります。これらの報告を基に、｢今ならできる、みんなでストップ温暖化！｣をテーマに総合討論を行います。

温暖化防止は今世紀の最大の問題です。Ｇ８洞爺湖サミットでの会議から 2009 年末、デンマークで開かれる国連気候変動枠組み条約の第 15 回締約

国会議（COP15）に向けて世界･国・地域･市民レベルで取り組む必要があります。多くの皆さまとご一緒に話し合う場にしたいと思います。
是非多くに方のご参加をお待ちしています！

✿詳細は、ホームページをご参照ください。HP：/http://www.cit.nihon-u.ac.jp/chibakaigi/
✿照会/申込　FAX047-336-3785　TEL090-3049-9335　電子メール：chibakaigi@hotmail.com
◆地球温暖化防止のための学習会を３回開催します。　こちらも是非ご参加ください！！

学習名	開催日時	開催場所	テーマ・内容
「流山電鉄」の旅	10 月 4 日(土) 13 時～16 時	流山電鉄流山駅 流山市役所	流山電鉄と地域交通の歩み CO2 オフの都市交通
省エネ住宅で CO2 オフ！	10 月 18 日(土) 13 時 30 分～15 時 30 分	日本大学生産工学部 津田沼キャンパス	省エネ住宅で CO2 オフ！ 「無暖房･最適省エネ住宅について」山下　恭弘氏
再生可能エネルギー（風力発電）の展開	11 月 1 日(土) 13 時～14 時	同上	風力発電について大学・企業・NPO の方からの発表

千葉県自然観察指導員協議会（通称　自然観察ちば）活動の紹介
～今こそ「自然観察からはじまる自然保護」の実践を～

千葉県自然観察指導員協議会　小西博典

当協議会は今年で満 25 周年を迎え、三百五十数名の会員が県内各地で自然観察会や自然保護・保全活動を行っています。去る 9 月 6 日、千葉市の京葉銀行文化プラザに 70 名を超える会員の皆様が参加し、「自然観察ちば 25 周年記念の集い」が盛大に開催され、先輩諸兄のお話を拝聴する機会を得ました。

協議会発足以来、「自然観察からはじまる自然保護」を合言葉に、各地でひたすら自然観察会を開き続けてきた先輩諸兄や仲間の地道な活動に頭が下がり、正に継続は力なりを実感しています。

現在、地球温暖化や生物多様性保全など地球規模の環境問題が顕在化し、ＴＶ・新聞をはじめ各種講演会やシンポジウムなどを通じ、この言葉を見たり聞いたりしない日はないほど知識として森林など自然環境の公益的機能に対する認識は皆さん十分過ぎると思います。しかし、知ると行動するとは必ずしも同じ次元ではなく、知行不一致が環境問題でも大きな課題の一つになっています。

今、肝要なことはシンポジウムなどのイベントやTV・新聞による教宣活動だけではなく、実際に屋外に出て五感をフルに活用し直接自然と触れあったり、里山整備作業を行ったり等の実体験の機会を提供することも必要でしょう。これら実体験を通して自ら何かを感じ取り、自分なりのしっかりとした環境問題に対する考え方を持ち、一人ひとりが自分でできることから行動に移していくようになればと念じております。

「自然観察からはじまる自然保護」について、NACS-J 自然観察指導員講習会テキストからその要旨を抜粋すると、自然保護教育の一つである自然観察会には大きく三つの要素があります。

第１に　「自然に親しむこと」　自然の美しさや

雄大さ、生き物たちの織りなすドラマの素晴らしさ、自然の怖さなど五感を駆使し実体験を通して自然をとらえ、感性を磨き自然を好きになる。

第２に　「自然を知ること」　自然のさまざまなしくみ、生き物と環境・生き物同士のつながり、人と自然のかかわりなど、実際の自然を教室や先生として学ぶ。

第３に　「自然を守る」　自然に親しみ、自然が好きになり、自然を知ることにより、自然を大切にする豊かな感性を育むと同時に、自然との付き合い方を考える機会にもなる。講演会などと異なり、実際の場面に遭遇するのであるから、一人ひとりがより深く自分の問題として考えざるを得ない。

このような自然観察会の要素を頭の中にイメージし、参加者の皆さんにまずは自然に親しみ、楽しんでもらうことを第一に心がけています。その結果、参加者の皆さんが自然の何かに感動し、何かを感じ取ってもらうお手伝いができればと思っています。千葉市緑公園緑地事務所と協働で開催している昭和の森自然観察会も今年で１６年目を迎え、この８月で２００回の観察会を開催しました。その間、一

万人を超える参加者を数えています。

地球環境問題に対する対応が必要な今こそ各地で自然観察会を開催し、一人でも多くの方々に参加してもらい、「自然観察からはじまる自然保護」に少しでも近づくよう先輩諸兄の敷いたレールに沿って活動しております。特に、「小学校自然観察支援活動」など次世代を担う子供さんたちを対象に、協議会組織を活用し重点的に取り組んでいきたいと思います。

・・会員近況報告・・・

≪9 月運営委員会≫
日時：9 月 22 日(月)　午後 6：00～8：50
場所：船橋市民活動センター　フェイス
報告及び協議
・エコメツセ 2008in ちば
・ＳＵＲＴＥＣＨ　・ちば環境再生推進委員会
・だより 63 号・印旛沼環境基金
・環境学習コーディネーター事業　ほか

お知らせコーナ

～～千葉県水質保全課からのお知らせ～～

「水質浄化対策アイディア及び負荷量削減対策取組事例の募集」

県では、平成１９年６月に策定した第６次東京湾総量削減計画の削減目標を着実に達成するための実行計画として、平成２０年３月に「みんなで東京湾をきれいにする行動計画」を策定しました。

県と流域の市町は、協働してこの計画を推進し、県民の皆様が主体的・積極的に水の汚れを減らす取り組みを進めるための環境づくりとして、県民の皆様や事業者の方々が実際に取り組んでいる「水質浄化対策に関するアイディア」及び「負荷量削減対策に関する取組事例」を募集し、公表することで排水対策の広がりを訴えていくこととしています。

ご自身や身近な方で取り組まれている水質浄化に関するアイディア等がありましたら、積極的にご応募ください。

（締め切り：平成２０年１０月３１日）

募集している内容、応募方法など詳細は、県水質保全課のホームページを御覧ください。

問い合わせ先：県庁水質保全課　電話 043-223-3871
http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_suiho/

「文化の日千葉県功労者表彰」決定！！

環境功労者として、
環境パートナーシップちば
(団体）も選ばれました。
表彰式は 11 月 3 日

「本を作る学習会」
日時:10 月 14 日（火）
午後 6：00～8：00
会場：船橋女性センター第２会議室
講師：高野　史郎氏
(市川市自然環境政策専門委員)
参加費：300 円(資料代)
主催：環境パートナーシップちば
申し込み問い合わせ：桑波田
Tel/fax：043-258-5437

◆広報部より
・環パちばの HP に団体のイベント紹介などアップいたしますので、是非お知らせください。
また、「だより」へ団体・個人の活動紹介も掲載しますので、下記までお知らせください。
環パちば HP：http://kanpachiba.com/　e-mail：info@kanpachiba.com　FAX：０４３-２４６－６９６９

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　ＦＡＸ　043－246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872　千葉県環境財団　環境技術部　環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		